

大会競技規則及び大会特別規則

平成22年2月27日(改)
印旛郡市少年野球連盟

【大会競技規則】

1. 大会は、「当該年度公認野球規則」、全日本軟式野球連盟〔学童野球に関する事項〕及び「大会特別規則」を適用して実施する。
2. 大会出場資格は、千葉県少年野球連盟登録チーム単位とし、大会でのベンチ入りは、登録された代表者、監督(30番)、コーチ(29、28番)(この内認定指導有資格者1名以上を含む)、スコアラー、介護員(女性に限る)の6名以内、選手は主将(10番)、他の選手は(原則として0～27番)とし、25名以内とする。監督、コーチ、選手は同一のユニフォームに背番号(規定の寸法)を付ける。
3. ヘルメットは、JSBBマーク入りで両耳フラップヘルメットを着帽し、打者、次打者、走者、ランナー、スコアラー及びノッカーや球審にボールを渡す選手は必ず着帽する。
4. 金属バットは、JSBBマーク入りのもので連盟が認めたものに限る。
5. 捕手(控え捕手も含む)は、JSBBマーク入りでマスク(スロートガード付)、レガース、プロテクター、ヘルメットを着用する。
6. 大会は、トーナメント戦とする。

【大会特別規則】

1. ベンチは、組み合わせ番号の若番が一塁側、攻守は打順表提出時に主将のジャンケンで決める。
2. 打順表の提出は、試合開始予定時刻40分前迄に、監督、主将が4部を球場責任者に提出する。
3. シートノックは、後攻チームから開始し5分以内とする。ただし、試合の進行状態によっては行わないこともある。
4. 試合は7回戦、若しくはタイムゲームを適用する。1時間45分を超えて新しい回に入らず、その回の得点をもって勝敗を決する。同点の場合は直ちに「特別延長戦」を適用する。ただし、決勝戦は得点差によるコールドゲームを適用しない。
5. 同一投手の投球回数は、特別延長戦を含み1試合5イニング以内とする。2試合ある場合は、2試合目も5イニング以内とする。
6. **【特別延長戦】**
前回攻撃終了時の最終打者を一塁走者に、二塁、三塁の走者は順次前打者とし、継続打順で一死満塁にして勝敗を決する。直も同点の場合は継続打順でもう一度行い、さらに決着がつかない場合は抽選とする。選手の交代は通常の場合と同様である。
7. **【コールドゲーム】**
 - 1) 得点差の場合は、3回均等回終了後15点差、5回均等回終了後7点差とする。
 - 2) 日没・降雨によるコールドゲームの適用は、4回終了後適用する。また、4回終了前については、特別継続試合(サスペンデッドゲーム)とし、後日の第一試合前に行う。日没・降雨の判断は、当該球場責任者、当該球場責任審判員が両チームの監督を招集し協議して決定する。決勝戦は日没・降雨により5回前に試合を中止した場合は、後日再試合とする。
8. 臨時代走(コーティシーランナー)を認める。(代走は打順前位の者、ただし、投手、捕手を除いてもよい)
9. 抗議権のあるものは、監督と当該プレイヤーとする。
10. 低学年(4年生以下)大会は本則を適用せず「千葉県少年野球低学年大会特別規則」を準用する。

申し合わせ及び確認事項

2011. 2. 26

印旛郡市少年野球連盟

1	野球協会主催大会出場チーム(但し、全日本学童千葉県大会優勝チーム及び関東学童千葉県大会出場チーム)及び千葉県スポーツ少年団大会優勝チームは、千葉県少年野球大会(千葉日報杯)への出場は出来ない。
2	投手の変化球は禁止し、変化球に対してはボールを宣告する。再度繰り返した場合は、交代させる。
3	作戦タイムの回数制限は7回戦で攻撃側3回・守備側3回とする。尚、特別延長戦は1回につき各1回とする。(内野手(捕手を含む)が2人以上マウンドに行った場合は、1回にカウントする)
4	規則8.06監督が投手のところへ行く回数の制限は、競技者必携記載「協議に関する連盟特別規則」十三の1.3.4を適用する。
5	走者及び打者走者は走塁の時ベースコーチまたは選手に触れてはならない。走塁補助とみなしてアウトを宣告する。また本塁打の走者を迎える場合はベンチ前のみとする。
6	監督に限り、グラウンドに出て、指示等を行うことが出来る。
7	全大会に介護員1名(女性に限る)、ベンチ入り出来る。
8	各イニングの投球練習時、控え捕手に代わって指導者が出来るが、他の選手の練習相手は出来ない。
9	選手の手袋・リストバンド(共に単色)着用を認める。(投手は認めない)
10	ベンチ内は禁煙。試合中、喫煙を目的としてベンチを出た場合は、再びベンチへ戻り指導をすることは出来ない。ただし、生理的又はその他理由により、球審の許可を得た場合はこの限りではない。
11	メンバー交換終了後、ユニフォーム着用者以外はグラウンドに出ることは出来ない。
12	(1)代理監督が28番、又は29番を着ける場合のベンチ入りはこの2名である。 (①背番号はダブらないこと、②30番は使えない) (2)メンバー表に必ず「代理」の記載をすること。
13	シートノックを行う監督又はコーチにボール渡しを行う選手はヘルメット着帽のうえ、トス渡しとする。球審へボール渡しを行う選手はヘルメットを着帽する。
14	同一チームの監督、コーチ、選手の服装は同色、同形、同意匠のユニフォーム(帽子、ストッキング、アンダーシャツを含む)を着用すること。代表者、スコアラー、介護員の服装は帽子に限り同形の物を着帽し、靴は運動靴を着用する。
15	スパイクシューズは、監督、コーチ及び選手は全員同色とする。(金属製の使用を禁止する)
16	投球練習(ベンチ前の投球練習含む)及びシートノック時、キャッチャーは防具・面を着用のこと。また、シートノック時キャッチャー後方にいる選手はヘルメットを着帽のこと。
17	代表、監督、コーチ、審判は、認定証を携行し、提示出来るようにしておく。
18	投手の1日の投球回数には「特別延長戦」も含む。

以上